

# 感染症発生動向調査委員会報告 5月

## 《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の食中毒がありました。
- 風しんの報告が増加しています。
- 麻しんの流行に注意が必要です。
- 伝染性紅斑で、栄区が警報レベルとなっています。

## 全数把握疾患

### <細菌性赤痢>

1件の報告がありました。菌種は*Shigella sonnei*です。渡航先(カンボジア王国)での感染です。

### <腸管出血性大腸菌感染症>

7件の報告がありました。うち2件(1件は抗体でO111陽性、もう1件はO157 VT1VT2)は焼肉チェーン店関連の食中毒です。また、他の5件では、10代男性2名、30代男性、60代女性からO157VT1VT2、60代男性からO121(HUSを発症)がそれぞれ検出されています。感染経路については調査中です。

### <A型肝炎>

1件の報告がありました。国内経口感染例の9割は、魚介類によるものと言われています。ただ、手洗いの不徹底による人から人への感染の恐れもあるので、十分な手洗いが予防には重要です。

### <レジオネラ症>

肺炎型2件の報告がありました。感染経路は不明です。

### <後天性免疫不全症候群>

4件(3件は無症候期)の報告があり、すべて国内の同性間接触によるものです。厚生労働省エイズ動向委員会(5月23日)の年間報告(確定値)で、昨年1年間の全国における新たなAIDS患者報告数は469件で、08年、09年の431件を上回り、過去最多を更新したことが明らかになりました。今後も、市内での推移を注視するとともに、感染予防と検査による早期発見・治療が重要です。

### <梅毒>

1件(早期顕性梅毒1期)の報告がありました。国内の異性間接触によるものです。

### <アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症2件の報告がありました。国内での性的接触が推定されています。

### <劇症性溶血性レンサ球菌感染症>

1件の報告がありました。

## <風しん>

5月は5件の報告がありました。横浜市の4～5月の報告件数は計10件で、昨年度の報告総数3件をすでに上回っています。東京都、川崎市等近隣地域での流行は見られません。風しんは、麻しんと非常によく似た症状を呈する場合があります。10件のうち6件については、風しんと麻しんの両方の可能性が疑われたため、麻しんPCR検査を実施したところ、6件全例が陰性となりました。

## <麻しん>

7件の報告がありました。乳幼児2件の他は成人の感染でした。7件のうち、乳幼児2件と成人2件で予防接種歴がありましたが、他は不明でした。6件について麻しんPCR検査を実施しており、うち3件は陰性、3件は検査中です。東京都での流行は、17週20件、18週8件、19週12件、20週19件と推移しています。なお、現在、ヨーロッパを中心に流行がみられ、輸入例についても注意が必要です。

麻しん患者数の減少に伴って、全数検査が重要になっています。診察時に麻しんを強く疑った場合、横浜市の検査診断フローに基づき、麻しんPCR検査の対応と、麻しん抗体検査をお願いします。また、できるだけ早く発生届、患者連絡票の提出をお願いいたします。

※各感染症については、横浜市衛生研究所HPをご参考ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/>

### 定点把握疾患

平成23年4月18日から5月22日まで(平成23年第16週から第20週まで。ただし、性感染症については平成23年4月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 平成23年 週一月日対照表

第16週	4月18日～24日
第17週	4月25日～5月1日
第18週	5月2日～8日
第19週	5月9日～15日
第20週	5月16日～22日

## 1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

## <インフルエンザ>

今シーズンは、今年第11週にピーク(定点当り40.05)を示しましたが、その後漸減し、第18週0.54、第19週0.31、第20週0.27で、流行の目安である1.0を下回り、ほぼ収束しています。

## <水痘>

第17週では瀬谷区で定点当り4.00、18週に緑区4.00、19週に旭区4.33、瀬谷区4.75と注意報レベルとなりましたが、20週では各区とも注意報レベルの区はなく、市全体でも1.77と落ち着いています。20週では、全国1.56、県域(横浜、川崎、相模原を除く神奈川県)1.35、川崎市0.94、東京都1.61でした。

<伝染性紅斑>

第20週では、栄区で定点当たり4.00と、警報レベルを上回りました。他に警報レベルの区は無く、市全体でも0.65と落ち着いています。例年初夏から流行が見られる疾患ですので、今後の推移に注意が必要です。20週では、全国0.92、県域0.76、川崎市0.73、東京都0.88でした。

<性感染症>

性感染症は、産婦人科系の10定点、および泌尿器科・皮膚科系の17定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。4月では、性器クラミジア感染症は男性が14件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は、男性が6件、女性が14件です。尖圭コンジローマは、男性が11件、女性が2件でした。淋菌感染症は、男性が8件でした。

<基幹定点週報>

クラミジア肺炎の報告が1件(3歳女児)ありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎の報告は今年に入って1件もありません。マイコプラズマ肺炎は、第4～6週の計4件のみで、その後は報告されていません。

<基幹定点月報>

4月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症10件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

表 警報・注意報レベルの基準値

疾病	警報		注意報 基準値
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	7	4	4
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
百日咳	1	0.1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点45件(鼻咽頭ぬぐい液43件、ふん便・直腸ぬぐい液2件)、内科定点1件(鼻汁)、基幹定点4件(鼻汁1件、髄液3件)、眼科定点5件(眼脂5件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎25人、下気道炎7人、発疹症6人、インフルエンザ、手足口病、胃腸炎各2人、流行性耳下腺炎1人、内科定点はインフルエンザ1人、眼科定点は流行性角結膜炎4人、急性結膜炎1人、基幹定点は無菌性髄膜炎2人、熱性けいれん、不明熱各1人でした。

6月10日現在、小児科定点のインフルエンザ患者2人と内科定点のインフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスB型、小児科定点の上気道炎患者1人からインフルエンザウイルスAH3型、小児科定点の上気道炎患者1人と眼科定点の流行性角結膜炎患者2人からアデノウイルス(型未同定)、小児科定点の上気道炎患者1人からポリオウイルス2型、基幹定点の不明熱患者1人からインフルエンザAH1pdm型とアデノウイルス6型が重複して分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者3人と下気道炎患者2人からヒトメタニューモウイルス、発疹症患者3人からヒトパルボウイルスB19型、上気道炎患者1人からヒトコロナウイルスOC43型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

5月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からの検体は1件で病原菌は検出されませんでした。基幹定点からは菌株受付が22件、定点以外の医療機関等からは7件あり、腸管出血性大腸菌、*Salmonella* (Thompson、Amager)、黄色ブドウ球菌 が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から14件で、A群溶血性レンサ球菌、インフルエンザ菌、肺炎球菌が検出されました。A群溶血性レンサ球菌の血清型はT3、T12、T25、T型別不能でした。

表 感染症発生動向調査における病原体検査(5月)

感染性胃腸炎							
検査年月		5月			2011年1月～5月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		1	22	7	2	38	14
菌種名							
赤痢菌			1			2	1
腸管病原性大腸菌			2			2	
腸管出血性大腸菌				4			6
腸管毒素原性大腸菌			1			1	
チフス菌							
パラチフスA菌						2	
サルモネラ				2			3
カンピロバクター							
黄色ブドウ球菌			1	1		1	1
コレラ菌							1
不検出		1	17	0	2	30	2
その他の感染症							
検査年月		5月			2011年1月～5月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		14	0	3	34	4	24
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌		T1			6		
		T3	1		1		
		T4			3		
		T6					
		T12	3		8		
		T13					
		T25	1		2		
		T28	4**	1	4**		1
		T B3264			2		
		型別不能	2		2		
B群溶血性レンサ球菌							3
G群溶血性レンサ球菌							
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						4	
バンコマイシン耐性腸球菌							15
髄膜炎菌							
<i>Achinomyces</i>				1			1
<i>Branhamella</i>		1**			1**		
<i>Legionella pneumophila</i>				1			3
インフルエンザ菌		2**			2**		
肺炎球菌		1**			1**		
不検出		3	0	0	6	0	1

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

\*\* : 同一検体から複数菌検出

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】